

★身に厚みのある抱卵した個体が多かった



▲▼数より型という人におすすめ



▲取材日は朝から食いが活発だった



▼旬の梅雨イサキは食味も最高



▲タナは海面から9～12メートル前後

▼船釣り2回目の西山さんも18尾を釣りお土産はバッチリ



▲良型そろいで引き味満点



▲食い気の立った群れに当たるとダブル、トリプルも



▲コマセカゴはオモリ60号のFLサイズ、船宿仕掛けはカラーバリ仕様は3本バリ、付けエサはイカタンが配られる



★「こういう大きなイサキが釣りたくて大原に通ってます」と40センチに迫るジャンボイサキを上げた三戸さん

外房大原港出船 撮影●本誌編集部
狙いはジャンボサイズ
外房大原のイサキ
楽しみ倍増中!!

◀カラーバリで十分釣れるが、食い渋ったときは付けエサが効果的
▶オキアミは持参



◎当日は顔を見せなかったが0.5～1キロ級のシマアジも交じる(写真提供:春栄丸)



九十九里～駿河湾の各地でイサキ釣りが盛期を迎えており、ここ外房大原港出船も連日規定数に達する好況に沸いている。

釣り場は大原～岩船沖まで広範囲に点在するが、取材した春栄丸は、良型主体に上がったっている大原沖の15メートルダチを主に狙っている。

「うちは数より型にこだわるお客さんが多いので、25～35センチ級の中大型が着く比較的浅い場所を攻めています。そのぶん数は一人20～30尾ほどですが、潮具合などの条件がよければトップが規定の50尾に到達する日もあります」と白川永一船長。

当地のイサキは8月まで十分期待できるので、ぜひともジャンボサイズの引きを楽しんでいただきたい。(詳細は54ページ参照)



▲春栄丸は大型船で釣り座の間隔もゆったり



●外房大原港・春栄丸 白川 永一船長